

ガーデニング市場に関する調査を実施（2016 年）

～都市部での貸し農園の増加により、堅調な市場推移を予測～

【調査要綱】

矢野経済研究所は次の要綱にて国内のガーデニング市場について調査を実施した。

1. 調査期間: 2016 年 2 月～6 月
2. 調査対象: 植物取扱企業、ガーデニング資材取扱企業、関連団体等
3. 調査方法: 当社専門研究員による直接面接取材及び電話などによるヒアリング、および文献調査併用

＜ガーデニング市場とは＞

本調査におけるガーデニング市場は植物分野と資材分野に大別され、植物分野とは、花壇用苗物、野菜苗・果樹苗、花木、球根、芝・グランドカバープランツ、鉢物等を対象とし、資材分野とは、鉢・プランター、家庭園芸用農薬、家庭園芸用肥料、家庭園芸用培養土、ミニ耕運機、芝刈機・草刈機・刈払機、ガーデニング関連商品*を対象とする。なお家庭菜園向け野菜苗・果樹苗の市場規模は、ガーデニング市場規模(図 1)の内数である。

*ガーデニング関連商品とは輸入ブランドガーデニンググッズ(グローブ、ウェストエプロン、その他ブランド物)、ガーデンファニチャー、ウッドデッキ・トレリス等のウッド製品、園芸関連機器(噴霧器、散水用品)、園芸金物類(移植ゴテ、スーパースーパー草抜き、ガーデンハンマー、ハサミ等)などをさす。

【調査結果サマリー】

◆ 2015 年度のガーデニング市場は前年度比 100.8%の 2,250 億円、

2016 年度は前年度比 100.2%の 2,255 億円と堅調推移を予測

2015 年度の国内のガーデニング市場規模は、前年度比 100.8%の 2,250 億円であった。中高年層や若年層においても農業に対する関心が高まっており、都市部を中心に市民農園や貸し農園の開園が引き続き増加するなど、家庭菜園が市場を牽引し、2016 年度のガーデニング市場規模は前年度比 100.2%の 2,255 億円と堅調な推移を予測する。

◆ 2015 年度の家庭菜園向け野菜苗・果樹苗市場は前年度比 102.6%の 157 億円

幅広いユーザー層が家庭菜園に参加、今後も拡大を予測

2015 年度の国内の家庭菜園向け野菜苗・果樹苗市場規模は、前年度比 102.6%の 157 億円であった。キッチン菜園を始める 20 歳代の若年層が増加するなど、家庭菜園は若年層から中高年、性別に関係なく、幅広い層が新たに参加しているのが特徴であり、市場拡大を支えている。今後も、引き続き消費者の健康志向や食への安全志向を背景に市場は拡大し、2016 年度の家庭菜園向け野菜苗・果樹苗市場規模は前年度比 100.6%の 158 億円を予測する。

◆ 資料体裁

資料名: 「2016 年版 ガーデニング・家庭菜園市場の展望と
販売チャネルの徹底研究」

発刊日: 2016 年 6 月 28 日
体 裁: A4 判 433 頁
定 価: 120,000 円(税別)

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地: 東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長: 水越 孝

設 立: 1958年3月 年間レポート発刊: 約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先(当社 HP から承っております <http://www.yano.co.jp/>)

㈱矢野経済研究所 マーケティング本部 広報チーム TEL: 03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報チーム迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】

1. ガーデニング市場の概況と予測

2015 年度の国内のガーデニング市場規模は前年度比 100.8%の 2,250 億円であった。このうち植物分野は生産者出荷金額ベースで前年度比 101.1.%の 937 億円、資材分野はメーカー出荷金額ベースで同 100.5%の 1,313 億円である。2013 年度は春先の天候不順で、市場は前年を下回ったが、2014 年度、2015 年度共に家庭菜園が牽引し、市場は拡大で推移する結果となった。

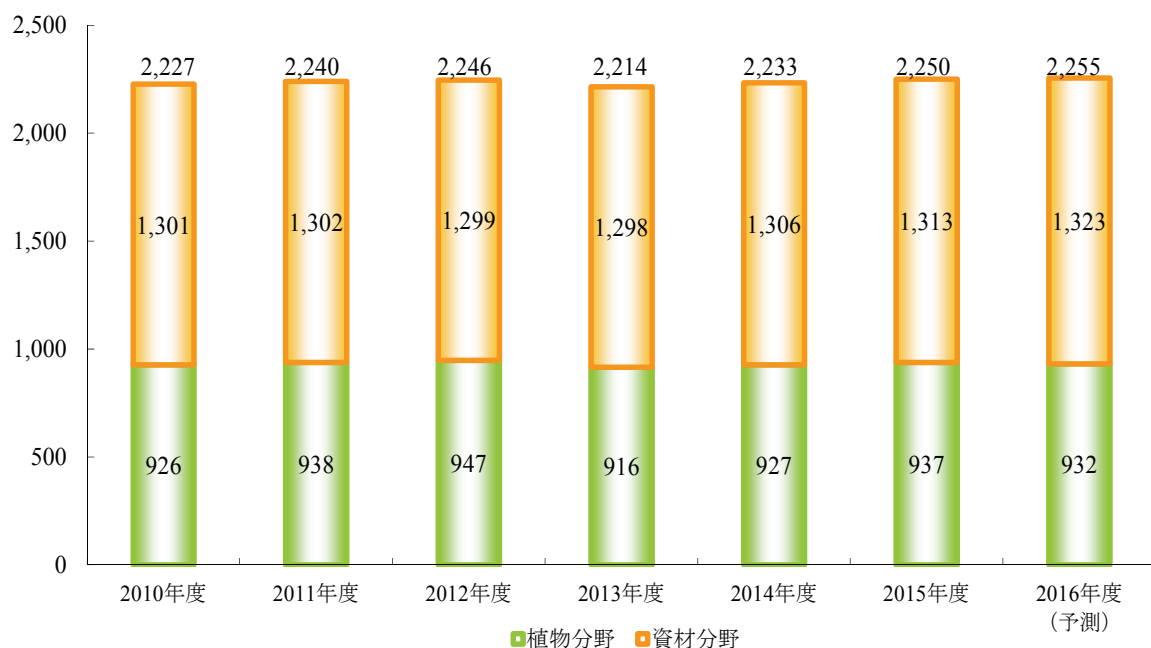
主な園芸ユーザー層であるシニア層が高齢化する一方で、中高年層や若年層においても農業に対する関心が高まっており、都市部を中心に引き続き市民農園や貸し農園の開園が増えている。一方、政府では都市部で人気の市民農園を増やすため、都市部の遊休農地を市民農園として貸した場合の相続税の納税猶予を検討しており、また、生産緑地^注において、土地所有者が自ら農業をせずに貸し農園として貸す場合も、納税猶予の対象にする方向で制度の整備を進めている。これらが実現すれば、今後都市部の好立地の場所においても、貸し農園が拡大する見通しである。

今後のガーデニング市場は、引き続き家庭菜園が牽引し、2016 年度のガーデニング市場規模は前年度比 100.2%の 2,255 億円と堅調な推移を予測する。

注. 生産緑地とは、生産緑地法に基づき、市街化区域内の土地のうち一定の要件を満たし、管轄自治体より指定された区域のことである。

図 1. ガーデニング市場規模推移・予測

単位: 億円



矢野経済研究所推計

注1. 植物分野は生産者出荷金額ベース、資材分野はメーカー出荷金額ベース

注2. 2016 年度は予測値

2. 家庭菜園向け野菜苗・果樹苗の市場概況と予測

2015 年度の国内の家庭菜園向け野菜苗・果樹苗市場規模は生産者出荷金額ベースで前年度比 102.6%の 157 億円であった。

団塊世代全てが 65 歳を超えて、余暇を楽しむリタイア人口が急増しているのに加え、食の安全意識の高まりで、家庭菜園で無農薬などの野菜を自給自足したいと考えるファミリー層、さらにマンションなど集合住宅でもベランダ菜園を楽しむなど、幅広い層で家庭菜園が注目を集めており、ガーデニング未経験者の新規参入も急増している。50～60 歳代の女性が主力ユーザーのガーデニングとは異なり、家庭菜園は若年層から中高年、性別関係なく、幅広い層が参加しているのが特徴であり、20～30 歳代の若年層や、40～60 歳代の男性の参加も多い。さらに、今まで園芸に関心がなかった 20 歳代の若年層にキッチン菜園を始める人も増えており、キッチンカウンターやテーブルの上など、ちょっとしたスペースで手軽に育てられるため、人気が高まっている。

また、ベランダ菜園用や室内用の栽培キットなど、初心者にとっても手軽に家庭菜園を始められるような資材も商品化されているほか、高齢者向け施設においても施設内に農業施設を併設する事例^{注3}が増えており、市場拡大の一役を担っている。

今後も、手軽な趣味の家庭菜園は成長が期待できる分野であり、消費者の健康志向・食の安全志向の高まりを背景に市場は拡大し、2016 年度の家庭菜園向け野菜苗・果樹苗市場規模は生産者出荷金額ベースで前年度比 100.6%の 158 億円を予測する。

注3. 参考資料「養液栽培システム市場に関する調査を実施(2016 年)」(2016 年 5 月 31 日発表)

<http://www.yano.co.jp/press/press.php/001564>

図 2. 家庭菜園向け野菜苗・果樹苗の市場規模推移・予測

単位:億円



矢野経済研究所推計

注4. 生産者出荷金額ベース

注5. 家庭菜園向け野菜苗・果樹苗の市場規模は、ガーデニング市場規模(図1)の内数

注6. 2016 年度は予測値

注7. 野菜苗とは、トマト・ナス・キュウリなどの果菜類、キャベツ・タマネギなどの葉茎類、ジャガイモ・サツマイモなどの根菜類などを対象とし、果樹苗とは、ブルーベリーやミカンなどを対象とする。